

No. 1010

夏を告げる三社祭

江戸の名残りを漂よわせて浅草一带にくりひろげられた三社祭。
今から1300年前に隅田川に流れついた一寸八分の観音像を拾ったといわれる漁師2人、村長（おさ）の3人と、徳川家康が祭られてある^{*}三社観権、の祭りだ。

5月20日、まだ朝も早い頃、一の宮二の宮三の宮と呼ばれる三つの神輿が浅草神社を出て、浅草寺の境内を練り歩く。豆紋りの手拭い鉢巻りしく、350貫もあるという神輿を80人の若者がかつぐ。子供神輿も、境内を練る。ハッピ姿でかけ声勇ましく神輿をかつぐ子供達。この一日は神輿であけ、神輿で暮れる。各氏子の町内を練り歩き夕暮れ、神社に戻る。

江戸の昔、この一帯のお百姓は神輿の戻ってくる順で、その年の農作物の出来や売れ工合を占なったといわれている。浅草三社さまの祭りが終って、江戸にやがて夏がくる。

—教育とは何か—

学校統合の谷間

栃木県安蘇郡、田沼町立西中学校は地元5つの中学校を統合し、近代的な設備を整えた中学校としてスタートした。だがこの真新しさとは逆に、教室では空席が多く、生徒達の表情にも今一つの冴えが見られない。

5つの中学校のうち、三好、長谷場、作原の3校は統合に賛成したが、新合、飛駒の2校は^{*}通学時間がかかりすぎる。^{*}学校がなくなると過疎化がすすむ、と、統合に反対、この4月から同盟休校に入った。今西校の生徒達は閉鎖されたもとの校舎を独自で管理、アルバイトの学生を頼りに勉強中だ。

^{*}町議会で決まった通り、新しい西中に通うのが筋、というかつての仲間がバスで通うのを横に見ながら、反対派の生徒達は、^{*}今まで慣れ親んできた学校を一方的に廃校にするとは、とんでもない。独立校になるまで頑張る、と対立はエスカレートするばかり。

こんな混乱のさ中、統合反対の直接請求が出されたが、町議会はこれを否決。事態を重視した県では、県議団の立合いで解決を計り大集会をもった。だが大事な時に、町長さんは健康を理由に長期欠席、もっぱら低次元のやりとりが続き、いたづらに時が過ぎた。

統合か反対かを巡る紛争は教育とは何かという新たな問題に発展し、まだまだ尾を引きそうだ。